

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-022827

(43)Date of publication of application : 23.01.1996

(51)Int.Cl.

H01M 4/86

H01M 4/88

H01M 8/02

(21)Application number : 06-155571

(71)Applicant : TOSHIBA CORP

(22)Date of filing : 07.07.1994

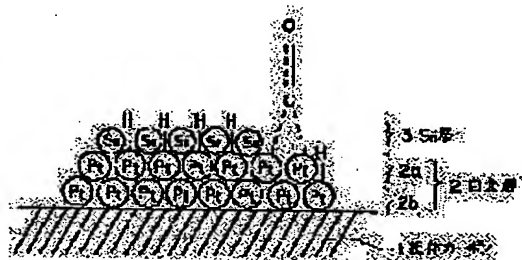
(72)Inventor : MAOKA TADANORI

(54) FUEL CELL ELECTRODE AND ITS MANUFACTURE

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a fuel cell electrode having a large reaction surface area, high resistance to various impurities in fuel gas, and an excellent catalytic function.

CONSTITUTION: A carbon supported platinum catalyst is kneaded with a fluoro- binding agent, is then applied onto a conductive porous gas, and baked to form a porous gas diffusion electrode. Next, the porous gas diffusion electrode is immersed for about one hour in a solution obtained by the dissolving of 2%, SnCl₄ and an excess amount of sodium formate in one mol of H₃PO₄, and the electrode is dried and completed. A catalyst layer comprises a support carbon 1, platinum layers 2 supported by the carbon 1, and Sn layers 3 formed on the surface of the platinum layers 2 as base metal element layers. In this case, a plurality of platinum layers 2 are formed with fine particles as units, and a single or plural Sn layers 3 are formed with fine particles as units.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-22287

(43)公開日 平成8年(1996)1月23日

(51)Int.Cl.⁵

G 1 0 K 11/08

A 4 5 B 27/00

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B

審査請求 未請求 請求項の数5 書面 (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平6-186882

(22)出願日 平成6年(1994)7月5日

(71)出願人 591118616

塩谷 良二

千葉県松戸市八ヶ崎1丁目47番地5

(72)発明者 塩谷 良二

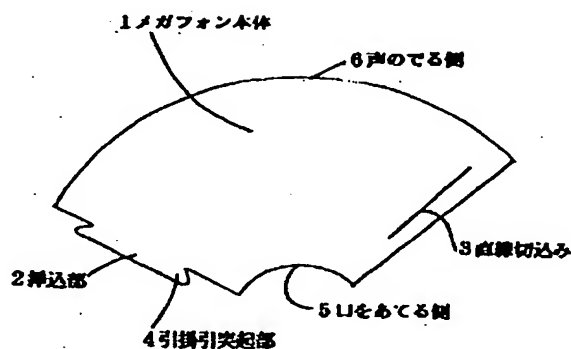
千葉県松戸市八ヶ崎1-47-5

(54)【発明の名称】 うちわ兼用のメガフォン

(57)【要約】

【目的】 野球やサッカーなどの観戦で暑い時は、扇子やうちわ として使用し声援する時には、組立ててメガフォンとして使用できる、うちわ兼用のメガフォンを提供するものである。

【構成】 メガフォン本体(1)の展開、端部付近に、組立て係合用の挿込部(2)と、これを挿込んで組立てる、係合用の直線切込み(3)を設ける。本発明は以上の構成である。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 メガフォン本体（1）の展開、端部付近に挿込部（2）を設け、その反対側に、直線切り込み（3）を設けてなる、うちわ兼用のメガフォン。

【請求項2】 メガフォン本体（1）の展開、端部付近に係合用切抜き孔（7）を設けたことを特徴とする請求項1のうちわ兼用のメガフォン。

【請求項3】 メガフォン本体（1）に適宜の数の山折（9）と、谷折（10）の折り目を設けたことを特徴とする請求項1のうちわ兼用のメガフォン。

【請求項4】 メガフォン本体（1）の折面の要（11）部分に紐（12）を通したことを特徴とする請求項1のうちわ兼用のメガフォン。

【請求項5】 メガフォン本体（1）の端部折面（13）（13'）のそれぞれに係合用の面ファスナー（14）（14'）を設けたことを特徴とする請求項1のうちわ兼用のメガフォン。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は、扇子やうちわとして使用できる展開平面体を組み立てて、メガフォンとしても使用できる、うちわ兼用のメガフォンに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来より、うちわはうちわ、メガフォンはメガフォンとして単品で、使用するものはあったが、両方兼用できるものは無かった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 野球やサッカーの観戦などで、暑いときには、扇子やうちわがあれば便利であるチームを声援するときには、メガフォンがあれば便利である。このような場合にうちわとメガフォンと2個、持って行くのは面倒でメガフォンも嵩張り、不便である。本発明はこの欠点を解決する為のものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】 メガフォン本体（1）の展開、端部付近に係合用の挿込部（2）を設け、それを係合用の直線切り込み（3）に挿入して組み立てる。本発明は、以上の構成よりなる、うちわ兼用のメガフォンである。

【0005】

【作用】 本発明はメガフォン本体（1）を展開して使用するときは、扇子又は、うちわとして使用出来るものであり、挿込部（2）を直線切り込み（3）に挿込み、その端部に、引掛突起部（4）に係合させて組立てることでよりメガフォンとなるものである。これを口にあてて、声援することもできる。

【0006】

【実施例】 図面1はメガフォン本体の展開平面図であり、図面2はメガフォン本体の組立て斜視図である。図

2

面3は係合用抜き孔付メガフォンの実施例斜視図である。第4図は折りたたみメガフォン本体の展開斜視図である。第5図は折りたたみメガフォンを折りたたんだ斜視図である。第6図は折りたたみメガフォンを組立てた斜視図である。次にこれらの実施例を図面によって説明する。第1図は本発明のメガフォン本体（1）の展開平面図である。メガフォン本体（1）に挿込部（2）と直線切り込み（3）を設け、口をあてる部分（5）と、声の出る部分（6）を設け、これをそのまま使用するとき、直線切り込み（3）の端部を手持って扇ぐと、扇子又は、うちわのように、風を送ることが出来る。左ききの方は、反対側の挿込部（2）を持って、うちわとして使用するものである。第2図は、本発明の組立て図で、挿込部（2）を直線切り込み（3）に挿込んで引掛突起部（4）に係合させて組立てるとメガフォンとなり、試合前や、休憩中などは扇子や、うちわとして使用し、試合中はメガフォンとして使用、声援が出来るものである。第3図はメガフォン本体（1）の端部付近に、手の親指以外の4指が入る程の、係合用切抜き孔（7）を設けたもので、この孔は係合兼用で、ここを持って扇ぐと、扇子やうちわ、として使用する時、持ちやすいようにした本発明の実施例である。第4図は本発明の折りたたみメガフォンの展開斜視図であり、メガフォン本体（1）に適宜の数の山折（9）と谷折（10）の折り目を設け、これを使用するときは要（11）に通した紐（12）を引き締めて、うちわや、扇子のように、展開したまま、扇いで使用する。第5図はこの折りたたみメガフォンを折りたたんだ斜視図である。端部折面（13）（13'）に組立て用、係合面ファスナー（14）（14'）を設ける。第6図は第4図、第5図の折りたたみメガフォン本体（1）を組立てた斜視図で係合の方法を、端部折面（13）（13'）の面ファスナー（14）（14'）に係合させてメガフォン様に組立てた実施例である。

【0007】

【発明の効果】 本発明を使用することによって、試合の観戦等で、扇子やうちわを別々に持って行く必要がなく、携帯には、嵩張ることがなくうちわと、メガフォンが、兼用出来るものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明のメガフォン本体の展開平面図

【図2】 本発明のメガフォン本体の組立斜視図

【図3】 本発明の切抜き孔付メガフォン本体の使用斜視図

【図4】 本発明折りたたみメガフォン本体の展開斜視図

【図5】 本発明折りたたみメガフォン本体の折りたたみ斜視図

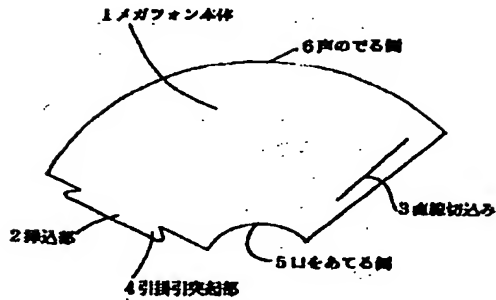
【図6】 本発明折りたたみメガフォン本体の組立斜視図

【符号の説明】

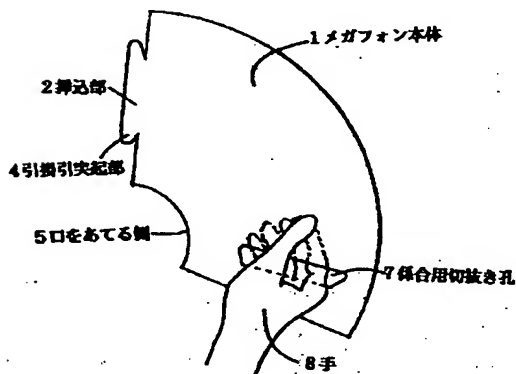
1 メガフォン本体
2 挿込部

- 3 直線切込み
4 4' 引掛突起部
5 口をあてる側
6 声の出る側
7 係合用切抜き孔
8 手

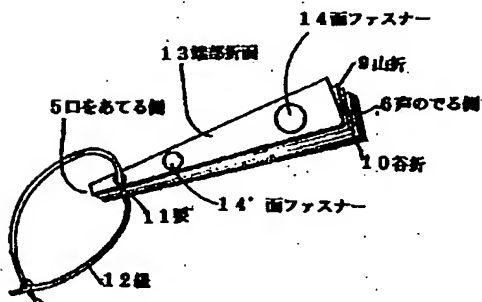
【図1】



【図3】

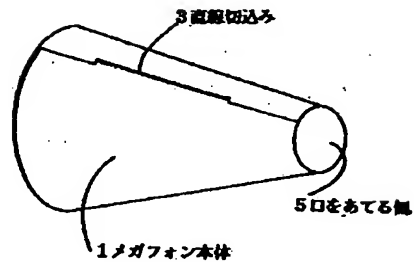


【図5】

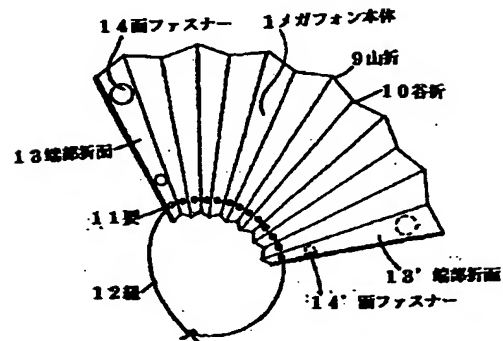


- 9 山折
10 谷折
11 要
12 紐
13 13' 端部折面
14 14' 面ファスナー

【図2】



【図4】



【図6】

